

阪南市埋蔵文化財報告 57

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 35

2017年

阪南市教育委員会

## はしがき

阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる大阪府下でも自然豊かな環境に立地しています。大阪市のベッドタウンとして高度経済成長期以降、大規模な住宅開発事業が行われてきました。バブル経済の破綻と共に大規模な開発行為は凍結されているものの、3000m<sup>2</sup>以下の開発事業は依然として行われています。

市内には現在、埋蔵文化財の包蔵地が約60ヶ所あり、この包蔵地内で土木工事などが行われる場合、文化財保護法に基づいて届け出を受け、発掘調査などを行うことにより文化財保護をはかっています。今年度も上記のような開発事業等が行われました。本書はこれら開発事業等に伴って実施した、埋蔵文化財の有無などの確認調査についての報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました土地所有者並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成29年3月31日  
阪南市教育委員会



第1図 大阪府阪南市位置図

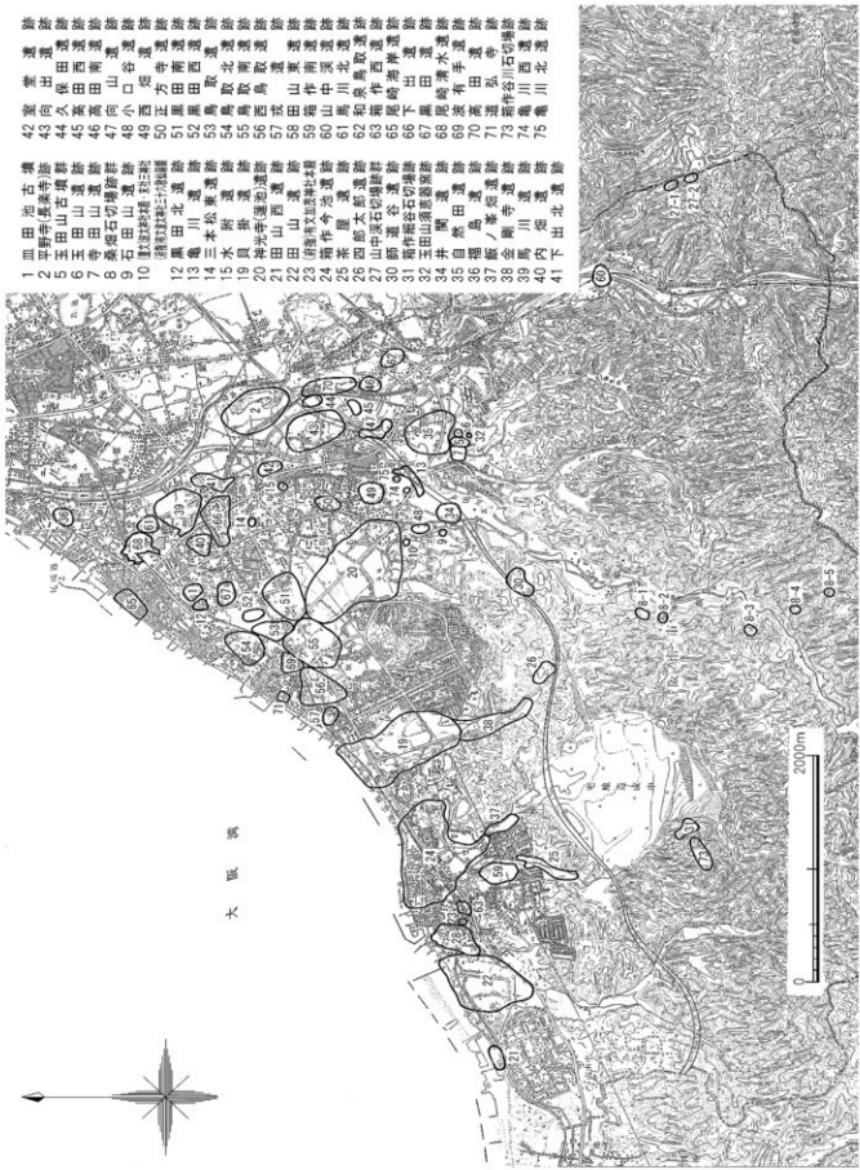
## 例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が阪南市内において実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、平成28年に国庫補助事業として計画、実施した。
3. 現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野　仁、須崎雄一朗(嘱託)を担当とし、平成28年1月から12月にかけて行った。
4. 本書内で示した標高はT.P.(東京湾平均海面)を基準としている。
5. 土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(2000年版)を使用した。
6. 発掘調査にあたっては土地所有者をはじめ、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
7. 本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。
8. 本書の執筆、編集は田中早苗、須崎雄一朗が行った。
9. 発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。

和田旬世、井上祥子、井上　進、島田万帆

## 目 次

第 1 節	馬川遺跡	(1) 16 - 1 区	1
第 2 節	下出遺跡	(1) 16 - 1 区	4
第 3 節	内畠遺跡	(1) 16 - 1 区	5
第 4 節	黒田南遺跡	(1) 16 - 1 区	6
第 5 節	西鳥取遺跡	(1) 16 - 2 区	8
第 6 節	自然田遺跡	(1) 16 - 2 区	9
第 7 節	鳥取中範囲外	(1) 16 - 1 区	10
第 8 節	石田範囲外	(1) 16 - 1 区	11
第 9 節	箱作範囲外	(1) 16 - 1 区	14
報告書抄録			15



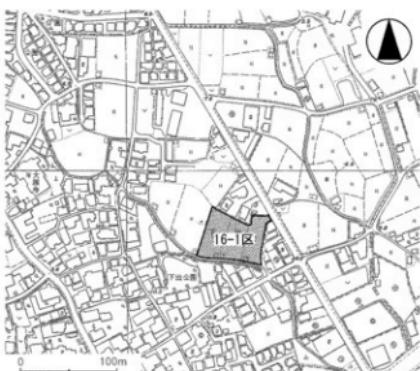
第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

## 第1節 馬川遺跡

馬川遺跡は、市域北東部を流れる男里川の左岸に位置し、砂州である低地部と和泉山脈から派生した段丘上にまたがっている。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査により発見、周知された。

遺跡は北を縄文時代後期から弥生時代中期の流路を検出した馬川北遺跡、南は中世期の墓地を検出した下出遺跡、西は平安時代から近世期の遺構、遺物を検出した内畠遺跡によって囲まれ、男里川の対岸には縄文時代以降の複合遺跡として知られる泉南市の男里遺跡が所在する。

低地部である東部と段丘上である西部では遺跡の性格が異なり、低地部ではサヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器等の弥生時代から奈良時代にかけての遺物が多く出土し、段丘上では多量の中世瓦が出土していることから付近に中世寺院の存在が想定される。また、縄文時代晩期の土器が出土し、古墳時代の堅穴住居、中世期の蛸壺焼成土坑、近世期の墓地等も検出されている。



第3図 馬川遺跡 調査区位置図



第4図 馬川遺跡16-1区 トレンチ位置図

### (1) 16-1区 (第3~6図)

調査区は馬川遺跡の南部に位置する。調査区内に7ヶ所のトレンチを設定し、全体で $22.06\text{m}^2$ の調査を行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層7.5YR4/2灰褐色土、第4層10YR5/8黄褐色粘質土、第5層5Y3/1オリーブ黒色粘質土(マンガン混)、第6層7.5YR5/4にぶい褐色粘土、第7層7.5YR5/4にぶい褐色砂混粘土で、第6層以下は地山である。

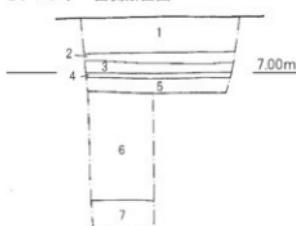
地山はT.P. + 6.40m～T.P. + 7.10mで検出した。4～7トレンチでは第5層がなく、3～5トレンチでは第2層と第3層の間に10YR3/4暗褐色砂質土が存在する。4トレンチでは第4層と地山の間に存在する5YR4/2灰褐色砂混礫が本調査で流路であ

1トレンチ 南側断面図

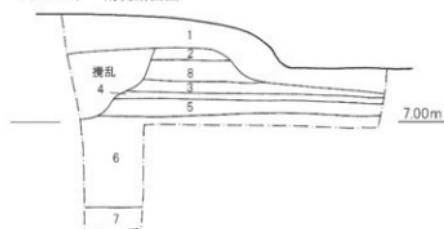


- 1耕作土
- 2床土
- 37.5YR4/2灰褐色土
- 410YR5/8黄褐色粘質土
- 55Y3/1オリーブ墨色粘質土(マンガン混)
- 6地山:7.5YR5/4にぶい褐色粘土
- 7" :7.5YR4/4にぶい褐色砂質粘土
- 810YR3/4暗褐色砂質土
- 95YR4/2灰褐色砂質土
- 102.5Y5/2暗灰褐色土(マンガン混)
- 1110Y6/1灰色砂質土
- 12薄:2.5Y6/2灰黃色粘質土
- 13泥路:7.5YR4/3暗褐色土
- 14" :10YR4/3にぶい黄褐色粘質土(マンガン混)
- 15" :7.5YR4/2灰褐色砂質土
- 16" :5YR4/2灰褐色粘質土
- 17" :5YR3/2暗赤褐色膠泥

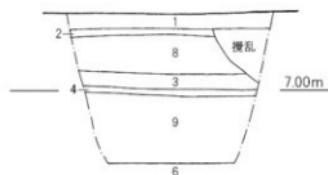
2トレンチ 西側断面図



3トレンチ 南側断面図



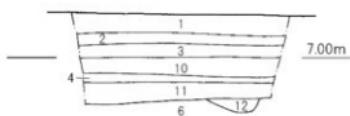
4トレンチ 南側断面図



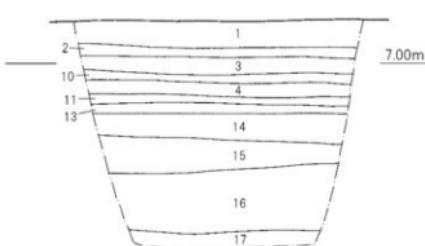
5トレンチ 東側断面図



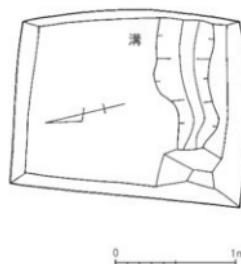
6トレンチ 平面・断面図



7トレンチ 北側断面図



地山面



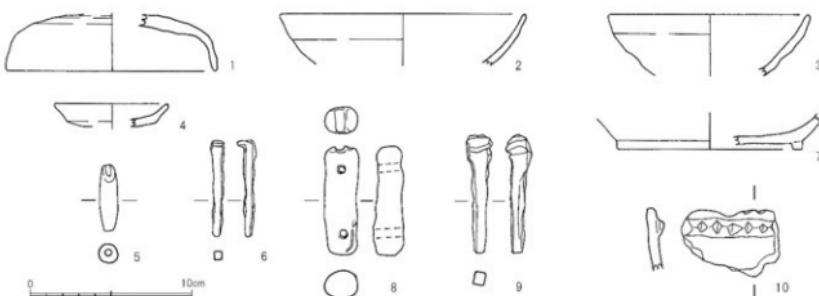
第5図 馬川遺跡16-1区 1~7トレンチ平面・断面図

ることがわかった。6・7トレンチでは第3層と第4層の間に2.5Y5/2暗灰黄色土(マンガン混)が存在し、第4層の下の10Y6/1灰色砂質土は、本調査で溝の埋土であることがわかった。7トレンチではそれより下は砂質土、粘質土、礫混砂等が堆積しており、地表面より約-1.90mまで掘削したが地山は検出できず、流路の堆積と思われる。

遺物は第3・4層からサヌカイト片、チャート片、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、須恵質土器、土師質土器、焼締陶器、白磁、製塙土器、土師質真蛸壺、土師質飯蛸壺、土師質管状土錐、中世瓦、鉄釘、鉄滓、第5層からサヌカイト片、縄文土器、10YR3/4暗褐色砂質土から土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、青磁、瓦質土器、製塙土器、土師質真蛸壺、土師質有孔土錐、中世瓦、鉄釘、スサ入り焼土塊、2.5Y5/2暗灰黄色土(マンガン混)から土師質土器、10Y6/1灰色砂質土から土師質土器、スサ入り焼土塊、7.5YR3/3暗褐色土から土師器、土師質土器、土師質真蛸壺、土師質有孔土錐が出土した。本調査で第5層からも黒色土器、瓦器、土師質土器が出土しており、遺物包含層は全て中世期と思われる。

1は須恵器坏蓋、2は瓦器楕、3～5は土師質で、3は碗、4は小皿、5は管状土錐。6・9は鉄釘、7は須恵器坏身、8は土師質有孔土錐である。1～6は第3層から、7～9は10YR3/4暗褐色砂質土から出土した。

遺構は6トレンチの地山面で溝を1条検出した。長さ1.40m以上、幅約0.45m、深さ約0.12mの東西方向の溝で、埋土は2.5Y6/2灰黄色粘質土である。遺物は10の縄文土器深鉢が出土した。口縁端部と口縁直下の貼付凸帯にD字刻が施された、縄文時代晚期のものである。同時代の溝の可能性が考えられる。



第6図 馬川遺跡16-1区 出土遺物

## 第2節 下出遺跡

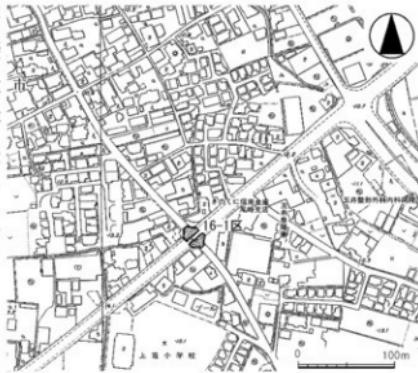
下出遺跡は遺跡の北部を信長街道が東西に貫通し、西部は井関越街道と接し、古い民家が立ち並ぶ旧集落に位置する。平成3(1991)年度の民間開発工事に伴う確認調査で発見された。その後の調査では鎌倉時代から近世期にかけての瓦が多量に出土しており、付近に寺院の存在が想定されている。

### (1) 16-1区（第7・8図）

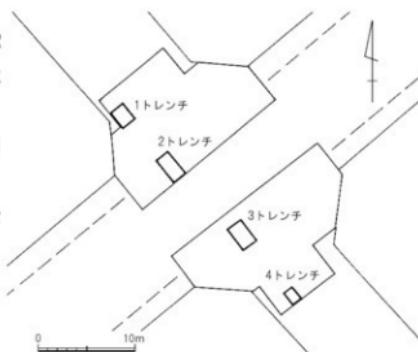
調査区は下出遺跡の南部に位置する。調査区内に4ヶ所のトレンチを設定し、全体で $14.05\text{m}^2$ の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層は10YR 7/6明黄褐色粘土の地山である。地山は地表面より約-1.25mで確認できたが、大半が攪乱を受けており、本来の地表面ではないと思われる。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第7図 下出遺跡 調査区位置図



第8図 下出遺跡16-1区 トレンチ位置図

### 第3節 内畠遺跡

内畠遺跡は、平成元（1989）年度の民間開発工事に先立つ確認調査によって発見された。既往の調査では溝や土坑等が検出されると共に多量の近世瓦、製糖に用いられた土師質瓦漏をはじめ、膨大な量の陶磁器、擂鉢や炮烙等の日用生活雑器も多く出土している。遺跡の中央部には尾崎を起点に和歌山へ至る井関越街道が縦断していることから、当遺跡が江戸時代に下出村の中心地であったことが伺える。



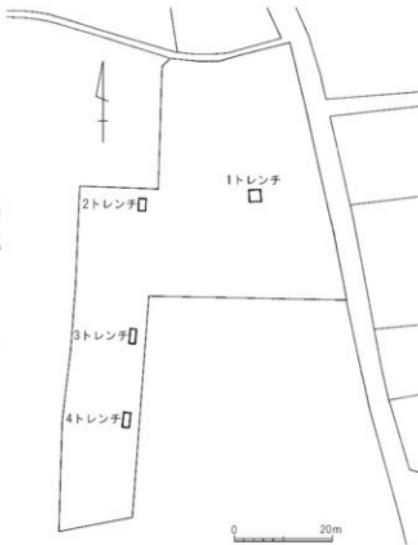
第9図 内畠遺跡 調査区位置図

#### (1) 16-1区（第9・10図）

調査区は内畠遺跡の西部に位置する。調査区内に4ヶ所のトレンチを設定し、全体で $17.76\text{m}^2$ の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層10YR4/6褐色粘質土、第4層5Y6/4オリーブ黄色礫混土で、第3層以下は地山である。地山はT.P. +8.95m～T.P. +9.20mで検出した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかつた。



第10図 内畠遺跡16-1区 トレンチ位置図

#### 第4節 黒田南遺跡

黒田南遺跡は阪南市の東部を流れる男里川によって形成された市内で最も広い平野部に位置し、北は黒田西遺跡、南は神光寺（蓮池）遺跡、西は鳥取遺跡、鳥取南遺跡に囲まれている。昭和63（1988）年度に阪南町教育委員会（当時）が実施した埋蔵文化財分布調査で発見された遺跡である。その後の30数件に及ぶ調査では、縄文時代の石鏃や弥生時代の遺物が出土しているものの、その時代に伴う遺構は検出されていない。多くの調査区から中世期の遺構や遺物が検出されていることから、この地が開発され、人々の定住が始まったのは中世期に入ってからと考えられる。

##### （1）16-1区（第11～13図）

調査区は黒田南遺跡の東端に位置する。調査区内に3ヶ所のトレンチを設定し、全体で $10.13\text{ m}^2$ の調査を行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層 $10\text{ YR}\ 4/4$ 褐色粘質土、第3層 $2.5\text{ YR}\ 4/4$ オリーブ褐色礫混粘質土、第4層 $10\text{ YR}\ 5/4$ にぶい黄褐色礫混粘土である。掘削可能な地表面より約 $-1.30\text{ m}$ まで掘削したが、



第11図 黒田南遺跡 調査区位置図



第12図 黒田南遺跡16-1区 トレンチ位置図

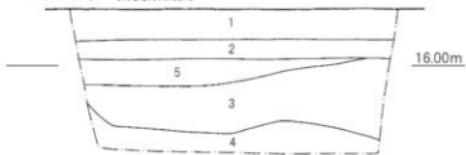
地山の検出には至らなかった。

遺物は第2層から須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、須恵質土器、青磁、白磁、製塙土器、土師質真蛸壺、土師質管状土錐、中世瓦、片岩が出土した。第2層は中世期の層である。

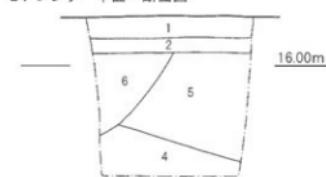
遺構は1トレンチで南西方向の落ち込みと2トレンチで土坑を1基検出した。落ち込みは第3層上面で検出し、埋土は10YR6/3にぶい黄橙色粘質土である。2トレンチでは第3層がなく、第2層と第4層の間に落ち込みの埋土と同じ10YR6/3にぶい黄橙色粘質土が存在し、土坑はその上面で検出した。東西0.80m以上、南北1.05m以上、深さ約0.65mでトレンチ外へ広がり、埋土は5Y6/2灰オリーブ褐色疊混粘質土である。いずれからも遺物は出土しなかった。

以上の調査の結果を受け、本調査が行われることとなった。

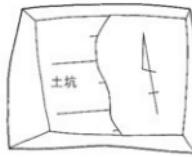
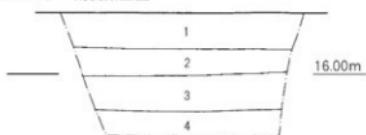
1トレンチ 西側断面図



2トレンチ 平面・断面図



3トレンチ 南側断面図



- 1 稲作土
- 2 10YR4/4 棕色粘質土
- 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色疊混粘質土
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色疊混粘質土
- 5 落ち込み：10YR6/3 にぶい黄褐色疊混粘質土
- 6 土坑：5Y6/2 灰オリーブ褐色疊混粘質土

0 1m

第13図 黒田南遺跡16-1区 1~3トレンチ平面・断面図

## 第5節 西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は市域北部に広がる平野の東部に位置し、北東は波有手遺跡、東は鳥取南遺跡に接し、西側約10mに戎遺跡が所在する。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査により発見され、これまでに40件近い調査が行われているが、調査は全て小規模なもので、遺跡の詳細は現在のところ不明である。

### (1) 16-2区（第14～16図）

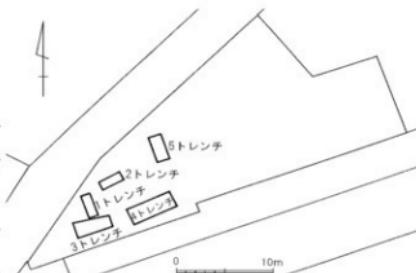
調査区は西鳥取遺跡の北部に位置する。調査区内に5ヶ所のトレンチを設定し、全体で $25.46\text{ m}^2$ の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層は2.5Y 8/4淡黄色粘土(マンガン混)の地山である。地山はT.P. + 8.55m～T.P. + 8.90mで検出されたが、いずれのトレンチも地山直上まで盛土であることから、削平を受けている可能性がある。

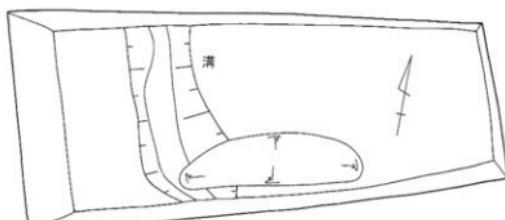
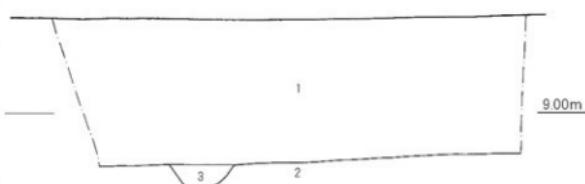
遺構は3トレンチの地山面で溝を1条検出した。長さ1.50m以上、幅0.75m、深さ0.20mの南北方向の溝で、埋土は10YR7/6明黄褐色粘土である。遺物は土師質土器、焼締陶器が出土し、中世期の溝と思われる。



第14図 西鳥取遺跡 調査区位置図



第15図 西鳥取遺跡16-2区 トレンチ位置図



1 盛土  
2 地山：25Y8/4 淡黄色粘土(マンガン混)  
3 埋土：10YR7/6 明黄褐色粘土

第16図 西鳥取遺跡16-2区 3トレンチ平面・断面図

## 第6節 自然田遺跡

自然田遺跡は男里川の支流である菟砥川の右岸に位置し、昭和61(1986)年度の民間開発工事に伴う調査で発見された。その調査で遺構は検出しなかつたが、サヌカイト製の石器や中世期の遺物が出土している。その後に行なった遺跡北部の調査では、遺構の検出には至っていないものの、中世期から近世期の遺物が若干出土し、南部の99-1区、05-1区では古墳時代中期の竪穴住居を検出している。また99-1区からは、多数のサヌカイト剥片とともにサヌカイト製石器が数多く出土している。

### (1) 16-2区（第17～20図）

調査区は自然田遺跡の南部に位置する。調査区内に3.6m×2.0mのトレンチを設定し、調査を行なった。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層7.5YR6/2灰褐色砂質土、第5層10YR6/4にぶい黄橙色砂質土、第6層2.5Y5/2暗灰黄色土(マンガン混)、第7層は2.5Y7/6明黄褐色粘質土の地山である。地山は地表面より約-1.45mで検出した。

遺物は第6層から石鏃、サヌカイト片、弥生土器、土師器が出土した。奈良時代の層と思われる。1はサヌカイト製の石鏃で、基部は欠損している。

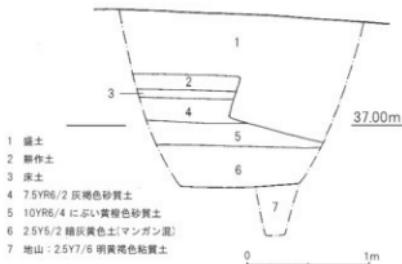
遺構は検出しなかつた。



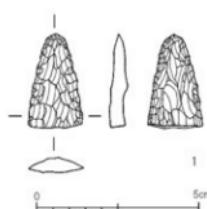
第17図 自然田遺跡 調査区位置図



第18図 自然田遺跡16-2区 トレンチ位置図



第19図 自然田遺跡16-2区 トレンチ北側断面図



第20図 自然田遺跡16-2区 出土遺物

## 第7節 鳥取中範囲外

### (1) 16-1区（第21～23図）

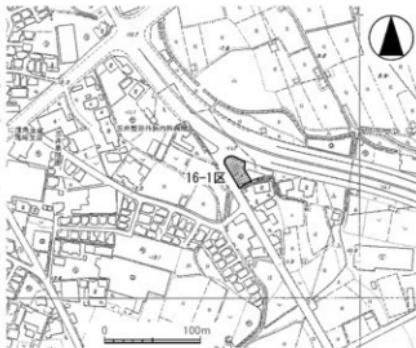
調査区は埋蔵文化財包蔵地ではないが、当地南西部と接する道路の向かいに下出北遺跡が位置していることから、遺跡の範囲を確認するためにも調査を行うこととなった。

調査区の南部に $2.4m \times 1.6m$ のトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層5Y7/4浅黄色粘質土（マンガン混）、第5層2.5Y6/4にぶい黄色粘質土（マンガン混）で、地表面より約-1.95mまで掘削したが、地山は検出できなかった。

遺物は第4層から土器片が出土したが、細片のため詳細は不明である。

遺構は検出されなかった。



第21図 鳥取中範囲外 調査区位置図



第22図 鳥取中範囲外16-1区 トレンチ位置図



第23図 鳥取中範囲外16-1区 トレンチ南側断面図

## 第8節 石田範囲外

### (1) 16-1区（第24～27図）

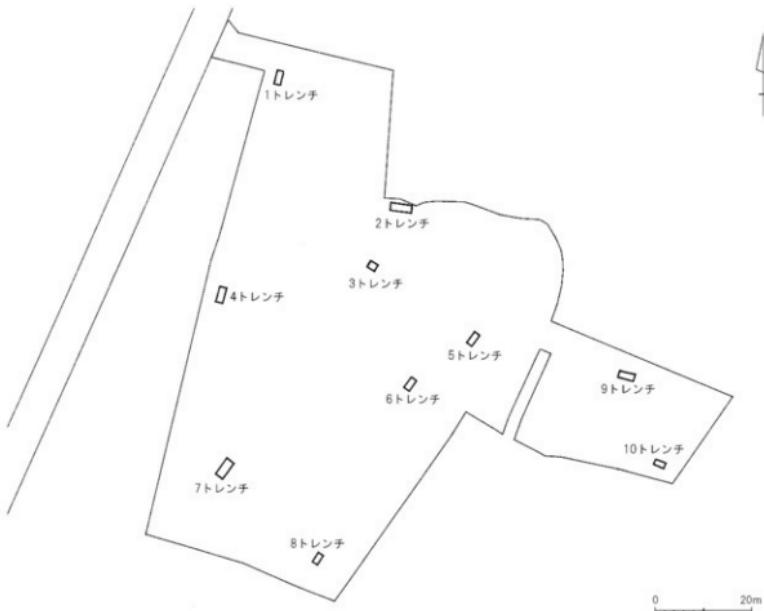
調査区の南側約15mに井関遺跡、北東約50mに亀川遺跡が所在する。当地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、遺跡に近接し開発面積が広いため、試掘調査を行うこととなった。

調査区内に10ヶ所のトレンチを設定し、全体で37.73m<sup>2</sup>の調査を実施した。

基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層2.5Y6/3にぶい黄色粘質土、第4層は2.5Y4/3オリーブ褐色礫混土の地山である。地山は調査区南部ではT.P.+36.60m、北部ではT.P.+35.50mで検出し、起伏しながら北方向へ傾斜する地形

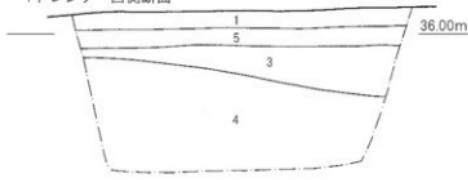


第24図 石田範囲外 調査区位置図

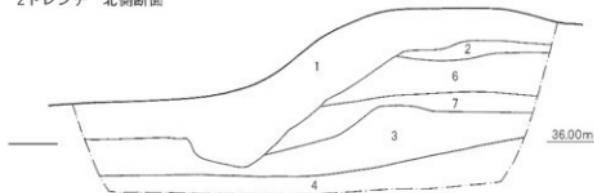


第25図 石田範囲外16-1区 トレンチ位置図

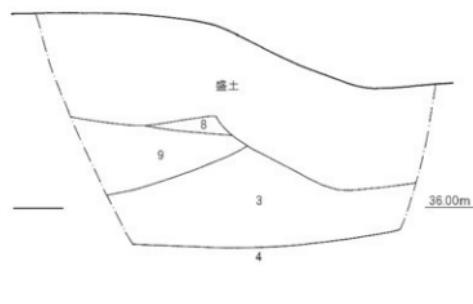
1トレンチ 西側断面



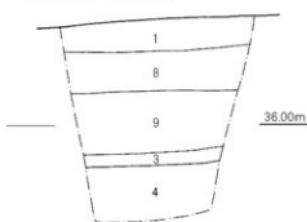
2トレンチ 北側断面



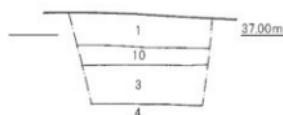
4トレンチ 北側断面



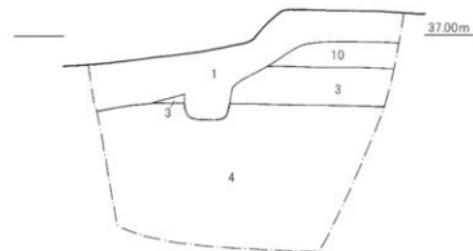
3トレンチ 北側断面



5トレンチ 北側断面



6トレンチ 東側断面



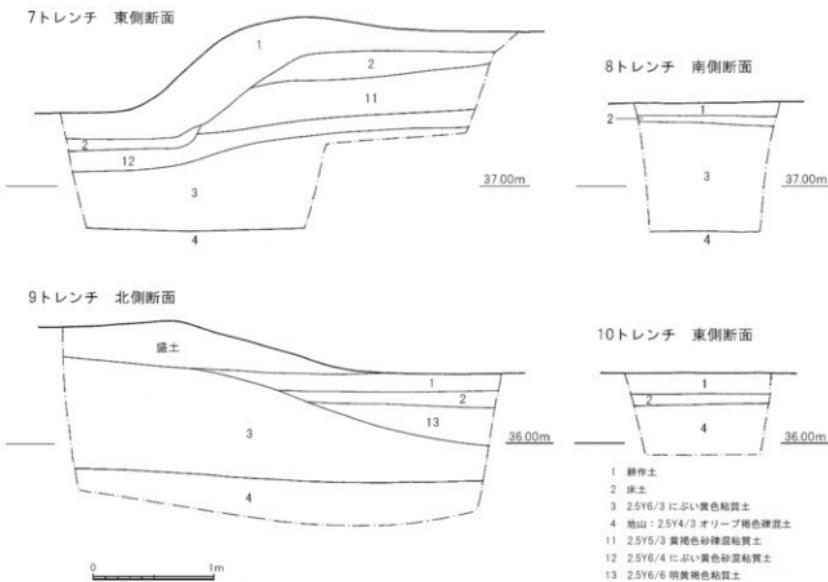
0 1m

第26図 石田範囲外16-1区 1~6トレンチ断面図

である。

第3層の上に、1トレンチでは7.5YR5/1褐灰色土、2トレンチでは10YR6/2灰黄褐色砂質土、10YR5/3にぶい黄褐色粘質土、3・4トレンチでは10YR4/3にぶい黄褐色礫混土、2.5Y7/4浅黄色粘質土(礫混)、5・6トレンチでは5Y6/4オリーブ黄色粘質土、7トレンチでは2.5Y5/3黄褐色砂礫混粘質土、2.5Y6/4にぶい黄色砂混粘質土、9トレンチでは2.5Y6/6明黄褐色粘質土が存在する。10トレンチでは第3層が存在しなかった。

遺物は、1トレンチの7.5YR5/1褐灰色土から土師質真蛸壺、2トレンチの10YR6/2灰黄褐色砂質土から土師質土器、瓦質土器、湊焼、陶器、スサ入り焼土塊、3トレンチの10YR4/3にぶい黄褐色礫混土から土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊、2.5Y7/4浅黄色粘質土(礫混)から土師質土器、7トレンチの2.5Y5/3黄褐色砂礫混粘質土から土師質土器、スサ入り焼土塊、2.5Y6/4にぶい黄色砂混粘質土から土師質土器が出土した。2トレンチの10YR6/2灰黄褐色砂質土は近世期、1・3・4・7トレンチの遺物包含層は中世期と考えられる。



第27図 石田範囲外16-1区 7～10トレンチ断面図

## 第9節 箱作範囲外

### (1) 16-1区（第28・29図）

調査区は埋蔵文化財包蔵地ではないが箱作西遺跡の南側約15mに位置していることから、遺跡の範囲を確認するために調査を行うこととなった。

調査区内の南側に4.3m×2.4mの1トレンチ、西側に2.4m×1.8mの2トレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層は10YR5/6黄褐色粘土の地山である。地山は1トレンチではT.P. +10.90m、2トレンチではT.P. +10.40mで検出し、周辺の地形と同様、北側に傾斜していることが確認できた。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかつた。



第28図 箱作範囲外 調査区位置図



第29図 箱作範囲外16-1区 トレンチ位置図

**報 告 書 抄 錄**

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう35									
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要35									
副書名										
卷次										
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告									
シリーズ番号	57									
編著者名	田中早苗・須崎雄一朗									
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室									
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 072-471-5678									
発行年月日	2017年3月31日									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡 番号	北緯 ° ′ ″	東經 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因			
うま 馬	がね 川	しもいで 下出	27232	39 34 21 23	135 15 04 ~ 0412	22.06	記録保 育調査			
しも 下	いでの 出	しもいで 下出	27232	66 34 21 13	135 15 03 ~ 0706	14.05	記録保 育調査			
うわ 内	はな 内	しもいで 下出	27232	40 34 21 20	135 14 49 ~ 0921	17.76	記録保 育調査			
くろ 黒	だ 田	みなみ 南	27232	51 34 20 57	135 14 40 ~ 0519	10.13	記録保 育調査			
にし 西	とつ 鳥	とり 取	27232	56 34 20 53	135 14 03 ~ 0805	25.46	記録保 育調査			
じ 自	ねん 然	だ 田	27232	35 34 20 17	135 15 25 ~ 1115	7.20	記録保 育調査			
とつ とり	なかはん 鳥取中範囲外	いのい 鳥取中	27232	34 21 13	135 15 14 ~ 1021	3.84	試掘・ 確認調査			
いし 石	だ 田	はん 範囲外	27232	34 20 24	135 15 05 ~ 1021	37.73	試掘・ 確認調査			
ほこ 箱	つく 作	はん 範囲外	27232	34 20 08	135 12 45 ~ 1129	14.64	試掘・ 確認調査			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
馬川	散布地	縄文時代～中世期	溝	サヌカイト片、チャート片、繩文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、須恵質土器、土師質土器、瓦質土器、青磁、白磁、焼締陶器、製塙土器、土師質真蛸壺、土師質飯蛸壺、土師質管状土錘、土師質有孔土錘、土師質有溝土錘、中世瓦、鉄釘、鉄滓	
下出	散布地				
内烟	散布地				
黒田南	散布地	中世期	土坑 落ち込み	須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、須恵質土器、青磁、白磁、製塙土器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、中世瓦、片岩	
西鳥取	散布地	中世期	溝	土師質土器、焼締陶器	
自然田	散布地	奈良時代		サヌカイト片、石鐵、弥生土器、土師器	
鳥取中範囲外					
石田範囲外		中世期～近世期		土師質土器、瓦質土器、渦焼、陶器、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊	
箱作範囲外					